

女性と雇用、経済：男女の機会均等とマクロ経済的利点

要旨

女性は世界の人口の半分強を占めている。しかし、実際の経済活動、経済成長および福祉への女性の貢献度はその潜在能力をはるかに下回っており、マクロ経済に深刻な影響を及ぼしている。全世界の労働市場は、最近数十年間で著しく発展を遂げたものの、性別により分割されたままであり、男女平等に向けた進展は行き詰まってしまったようである。女性の労働参加（FLFP）は依然として男性を下回っており、無報酬労働の大半を女性が占めている。有給の仕事に就いても、インフォーマルセクターや貧困層に占める女性の割合ははるかに大きい。また、女性は男性と比較し著しい賃金格差という問題に直面している。多くの国では、労働市場における歪みや差別から女性の有給の仕事の選択肢が限られ、女性の管理職や起業家に占める割合も依然として低いままである。

成長、雇用創出および包摂性の問題は、密接にからみあっている。女性が必要としている機会を提供する上で成長と安定が不可欠である一方で、女性の労働市場への参加は成長と安定の方程式の一部でもある。特に、急速に高齢化に向かっている国や地域では、女性の労働参加を拡大することで、労働力減少の影響を緩和し経済成長を押し上げることができる。また、途上国では、例えば、女子の就学率を高め女性により良い機会を提供することが、幅広い経済発展につながる可能性もある。

本ディスカッション・ノートでは、女性の労働市場参加に関するマクロ面での重要な特徴、女性が経済的潜在能力をフルに発揮することの妨げになっている制約、及びこうした障害を克服するために可能な政策について検証している。労働市場の歪みを取り除き、あらゆる人々に公平な機会をもたらす政策を実施することが、女性が自らの潜在能力を生かす機会につながり、女性の経済生活への参加がより顕著になるだろう。本ノートで示されている分析は、学界と他の国際金融機関（IFI）で実施された調査、及びIMFが実施したサーベイランスと調査活動に基づいている（別表1）。